

◎「ウクライナ支援」News Letter(47) 2026年1月27日

ミッション・宣教の声

主にある皆様へ

いつも主にあって祈り覚えてくださり、お札を申し上げます。

本日、船越宣教師から緊迫したウクライナ情勢の知らせをいただきました。大変心を痛めると共に、速やかにこの戦争がまず停止することを祈り願います。オデッサの教会の兄弟姉妹、そしてウクライナの国民を覚えましょう。どうぞ、祈り覚えてください。

ウクライナの冬は非常に冷えます。どうぞ、祈り覚えてください。主は宣教の必要も満たしてくださると信じています。皆様のお祈りとご愛、そしてご支援に感謝しています。

黒田 穎一郎

愛する皆様

いつもウクライナを覚え、私たちの働きを祈りに覚え、支え続けてくださっているみなさまに心から感謝をしています。

オデッサでは、12月中旬に無人爆撃機とミサイルによる大規模な攻撃で、電力施設が多大なダメージを受け、停電が続きました。その後、電力は少しづつ回復しつつありましたが、再度の電力インフラへの攻撃が起り、攻撃はその後も続いています。首都キエフでも激しい攻撃があり、電力だけではなく地域によっては一時的にガスと水もとまりました。厳しい冬の中で一般市民を困窮させ、戦意を喪失させるためのテロ攻撃に他なりません。寒さと暗さが続く中で、教会がイエスキリストの希望の光を照らし続けることができるよう心から願っています。

12月26日（金）、27日（土）、1月2日（金）、3日（土）の四日間、私たちは約50名の「戦没兵士の子どもたち」「戦争行方不明兵士の子どもたち」のためのクリスマス会を行いました。若者たち、子どもたち、またお母さ

んたちに、クリスマスの劇や賛美、またクリスマスプログラムを通して、キリストの愛を伝えることができました。続けて戦没兵士の子どもたちの働きを続けていく予定です。1月18日の午後には、「戦没兵士婦人の会」を行いました。今回は「先着10名」の戦没兵士の婦人をお招きして「寿司体験教室とコラージュ」をしました。外は雪が舞い、マイナス10度という天候の中で、みんなにとって初めての巻き寿司体験、お寿司のデコレーション・コンテスト、コラージュづくりなどを通して、楽しく温かい時間を持つことができました。

2月も10名の方を対象に、より深い交わりと関係を築くための特別プログラムを計画しています。どうか彼女たちの心にキリストの光と愛が届くようにお祈りください。私(真人)は、1月20日から28日まで、ウクライナ西部ロヴナの聖書学校で「新約概観」の授業を導く奉仕に当たっています。実は、この授業はロヴナの若い牧師(私たちの友人でもあるパーシャ牧師)が導くことになっていたのですが、先月、彼が徴兵されたため、急遽、私が代理をつとめることになりました。ウクライナでは徴兵が進んでおり、男性たちが本当に少なくなっています。(上記の「戦没兵士家族の会」に参加していた一人の女性は、2014年に始まった戦争で夫を亡くしましたが、先週は、息子さんが徴兵され、今、本当に深い悲しみと絶望の中にあります。)

私たちはオデッサの大学(ウシンスキ大学)で日本語を教えていますが、生徒の一人の父親が、2週間前に戦死したことを知りました。このような知らせが後を断ちません。早く、この戦争が終わることを心から願うばかりです。来月2月24日でウクライナ全面侵攻は5年目に入ろうとしています。一刻も早く永続的な停戦が実現し、ロシア軍がウクライナ領から撤退し、ロシアの兵士たちも、ウクライナの兵士たちも、自分たちの家族のいる家に無事に帰ることができるように、切に願うばかりです。みなさまの尊いお祈りに心から感謝しています。

すでに癒し難い傷を受けた人々のために、主が私たち教会をご自身の御手の中で用いてくださいますように。愛するみなさまの上に、主の祝福が豊かになりますように、心から祈っています。

船越真人・美貴

PS: 船越宣教師からの動画を添付します。

祈りの課題

1. 「ウクライナ・ロシア戦争」が停止・終息しますように
2. 戦争犠牲者が最小限にとどまりますように
3. 苦難の中で、キリストの福音が宣べ伝えられますように
4. 教会(集会)指導者に、神の助けと導きがありますように
5. 日本からの支援献金が豊かに用いられますように。
6. 船越宣教師家族が、日々危険な中でも主に守られますように。

※ 「ミッショント・宣教の声」の オンライン献金先は次です。

<https://vomi.jp/free-donation/>

